

令和2年度第4回 広島城のあり方に関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

広島城のあり方に関する懇談会

2 開催日時

令和3年3月2日（火）10:00～12:00

3 開催場所

広島市役所本庁舎14階 第7会議室

4 出席委員等

(1) 委員

三浦正幸委員（座長）、大庭由子委員、本田美和子委員、高田義治委員、平野公穂委員、飯田稔督委員、上田宗冏委員、金城一国斎委員、角倉博志委員

(2) オブザーバー

広島城館長、広島市緑政課長

(3) 事務局

広島市市民局 市民局長、文化スポーツ部長、文化のまちづくり担当課長 ほか

5 議事(公開)

- (1) 広島城天守閣の方向性に関する懇談会意見集約（案）について
- (2) 広島城三の丸整備基本計画（素案）について
- (3) 今後の進め方について

6 傍聴人の人数

2人（報道関係者を除く）

7 懇談会資料名

- ・広島城天守閣の方向性に関する懇談会意見集約（案）【資料1】
- ・広島城三の丸整備基本計画（素案）概要【資料2-1】
- ・広島城三の丸整備基本計画（素案）【資料2-2】
- ・今後の進め方【資料3】
- ・令和2年度第3回広島城のあり方に関する懇談会 議事要旨【参考資料1】

8 議事要旨

- (1) 広島城天守閣の方向性に関する懇談会意見集約(案)について、(2) 広島城三の丸整備基本計画(素案)について及び(3) 今後の進め方について

(三浦座長)

- ・議事(1)「広島城天守閣の方向性に関する懇談会意見集約（案）について」、(2)「広島城三の丸整備基本計画（素案）について」及び(3)「今後の進め方について」、併せて説明をお願いする。

(事務局)

ー 資料について説明 ー

(三浦座長)

- ・議事(1)広島城天守閣の方向性に関する懇談会意見集約（案）を説明する。先に意見集約（案）について皆さんに意見をいただいた後に、三の丸整備案の意見をいただ

きたい。

- ・ 1 が検討の経緯、2 が皆様に承認を頂きたい意見集約内容である。意見集約内容は(1)が天守閣の木造復元、(2)が復元範囲、(3)が展示収蔵施設の整備となっている。
- ・ 1 の検討の経緯については、令和元年10月から長い間にわたり皆様に協議いただいたが、広島城の一層の魅力向上を図り、新たな観光拠点として再構築することを目指しており、その結果、令和2年5月に、今後の取組の基本的な指針として広島城基本構想を策定いただいた。それから、現在の鉄筋コンクリート造の広島城天守閣は、耐震診断の結果、耐震不適格であったので、天守閣の耐震対策の方向性について皆様に御意見をいただいた。これが今までの経緯である。
- ・ 2 の意見集約内容の(1)天守閣の木造復元について、4点の要点がある。
- ・ 1点目は、前回、前々回の懇談会において、木造復元を支持するという意見が大多数を占めたことなどを踏まえ、広島市として木造復元を目指し、文化庁と丁寧な協議を行いながら本格的な調査検討を進めるように提案するという事で、懇談会の一番の骨子は木造復元について進めるという意見になっている。
- ・ 2点目は、木造復元の実現について①から④まで4点の課題がある。①は構造物を支えるための石垣、天守閣の台座、天守台について、状態を調査し補強が必要か確認しなくてはいけない。
- ②は木造復元、石垣の修繕等を確実に進めるために、事業推進体制の確保が必要で、新たな委員会を設置する必要がある。
- ③は事業を推進するために必要な財源を確保することで、昔なら全額税金だったが、今時は、特に文化面に関する事業について全額税金で行うのは時代遅れであり、それを踏まえた財源確保を推進してほしい。
- ④公的費用を含めた財源の確保に当たっては、市民の了解を得るための機運醸成を図ることなど、さまざまな課題があるということである。
- これらの課題を解決するのにかなり時間が必要である。その間の経過措置として、今後、開業予定の三の丸展示収蔵施設の活用を視野に入れながら、天守閣を含めた広島城全体の活用のあり方とあわせて、その段取りを検討するものである。
- ・ 3点目は、木造復元はかなり時間がかかるが、その間に今の天守閣をどうするか、皆様の御意見では、現在の天守閣はいずれにしても耐用年数が余り長く残っていない、将来、木造復元することになって二重投資になるということで、二重投資を避けるために、現在の天守閣に対する耐震改修は必要ないというのが3つ目である。
- ・ 4点目は、耐震改修を行わない場合、今の天守閣を開館したままにしておくのか、それとも閉館すべきなのかについて、色々なことを検討する必要があるので、施設の所有者である広島市において今後の対応を検討してほしい、これが天守閣の木造復元に関する意見内容である。
- ・ (2)の復元範囲について、天守閣だけでなく、東小天守・東廊下、南小天守・南廊下、さらには本丸中御門と裏御門についても木造復元をしたら、これは日本を代表する立派な広島城の価値がはっきりとわかることになるので、広島市として、その全体の具体的な方向性を示したらどうか。
- ・ 復元範囲の決定に当たって、天守閣だけでなく小天守までか、それとも中御門や裏御門までかについて、事業費やスケジュール等を十分に勘案して検討したらどうか。
- ・ (3)の展示収蔵施設の整備については方向性が書いてあり、まず一つ目は、三の丸のにぎわい施設の整備に当たり、飲食・物販施設、便益施設に十分配慮しながら、充実した規模の内容を備えた展示収蔵施設を併せて整備する。天守閣を木造復元すると、当分の間、展示する場所がなくなり、整備が必要となることから、骨子が書いてある。
- ・ 二つ目は、三の丸の展示収蔵施設の取り扱うべきテーマである。このテーマについては、皆様の御意見だと、広島城とその城下町の文化に特化した展示にしてはどうか、というのが意見の取りまとめの集約案である。
- ・ 資料1の意見集約案について意見をいただきたい。

(金城委員)

- ・戦後、私たちの生活とともにシンボルであった現天守閣について、最終的に木造復元を目指す場合に、それに関わる利点は色々なものがあるものの、天守閣からは展示収蔵機能がなくなるため、三の丸に展示収蔵施設を設けていただくように方向性がついた。
- ・復元範囲について、東小天守、南小天守、中御門、裏御門まで復元されると、日本を代表する広島城の城郭が再現できるのではないかと思う。
- ・裏御門に関して消防法の兼ね合いが出てくると思う。屋根がある門をRCCの側に整備すると消防車が入れないとか、それならば裏御門をどのように設置するかなど、その辺りで消防法との兼ね合いが出てくると思うが、それ以外は、私は概ねこの集約案でよいと思う。

(三浦座長)

- ・裏御門は、古絵図によると2階建ての櫓門である。中国新聞に残っている唯一の写真を見ると、2階がなくなり1階だけになってる。その復元については、消防法等の法規等や、また、どのような形で行うかについても、今後、広島市で検討していただきたい。

(平野委員)

- ・耐震改修を行わない場合の閉館の必要性については、何かあってはいけないという意味では、今後、広島市でしっかりと検討してもらいたいし、また、広島城天守閣の収蔵品等を三の丸展示収蔵施設に移す場合、三の丸の整備と天守閣の建て替えスケジュールが非常に関係してくると思う。三の丸に展示収蔵施設ができれば、当然、収蔵品が移ってくるが、その後、入口部分の三の丸が整備されても天守閣がなくなる期間も生じてくるので、その間の広島城全体のにぎわい向上も考えないといけないと感じたので、要望しておく。

(三浦座長)

- ・天守再建工事は全部含めて10年ぐらいかかるので、その辺の検討は十分に必要だと思う。

(飯田委員)

- ・意見集約案については、ほぼこの内容で全面的に賛同である。
- ・耐震改修を行わない場合の安全の確保をどうするのかは、時間をかけて検討するよりも、迅速に決めるべきと思うので、是非、広島市において迅速に決定していただきたい。
- ・この事業は一定の時間がかかるし、費用もかなりの額になると思うので、何をもって広島市民の了解を得て、機運の醸成を図るかが非常に大切であり、そういったところを意見として申し上げたい。

(角倉委員)

- ・懇談会での様々な意見の方向性として、的確にまとめていただいたと感じた。
- ・意見の中で、小天守も含めた広島城全体の復元と復元的整備も望ましいという意見が多かったと思う。ただ、現実的には色々な予算の制約もあり、文化庁との技術的な面での調整なども必要になると伺っているので、夢に向かって長期的な検討を行っていくことが適切であり、必要だと思う。そういう意味では、復元範囲を非常に的確に、将来の余地も残して、まとめていただいたということで、意見集約案については、私は全面的に賛成で、これに対して感謝申し上げたいと思う。

(上田委員)

- ・ 天守閣の木造復元や小天守の復元的整備について、県内外や国内外に、広報やアピールするときには、木造天守閣の再現と小天守の復元的整備を合わせて行っていくと打ち出したほうがよい。集約案では総花的に中御門・裏御門までが全部書いてあり、もちろん実現するに越したことはないが、今回、少なくとも、天守閣木造復元及び復元的整備の小天守までは市を挙げて取り組むとして、小天守までは復元的整備を含めて視野に入っていることを示すことが大事だと思う。この文章ではそれが感じられない。難題であってもチャレンジすることがものすごくインパクトになると思うので、もう少し書き方を考えてほしい。
- ・ 三の丸の展示収蔵施設について、2階建てで30億円、3階建てで45億円の試算と説明があったが、少なくとも延床面積の想定があって試算しているものと思う。資料には記載されていないので、どの程度か教えていただきたい。
- ・ また、1階建ての場合、観光案内所などが合築されれば現天守閣よりもさらに展示等の面積が狭くなるため、2階建てか3階建てとするとの説明があった。おそらく、今後、この施設が広島市の歴史的博物館として大きなシンボルになると思う。ますます、文化や歴史の方へ目が向かざるを得ない時代に入っていくと思うと、3階建てにはしないと、それだけのことに対応できないと思う。スペースの規模をわかる範囲で教えていただきたい。
- ・ 当初は、江戸時代の華やかな飲食等施設の整備を中心に思っていたものが、展示収蔵施設が大きくスペースを取り、飲食スペースは900㎡と当時よりもだいぶ減った。この飲食スペースと、元々あった神楽をするようなイベント広場は多目的広場に名前が変わったことが示されているが、将来的に、中央公園に広がりがあるのか、今段階で、幾らかでもそういう可能性があれば教えていただきたい。おそらく、そういう展開ができるのかどうかは、今後、広島にとって、文化的にも経済的にも非常に大きなウエートを占めるので、言える範囲で構わないので、教えていただきたい。

(三浦座長)

- ・ 小天守について、復元のスケジュールの問題もあるが、これについての御意見と、三の丸の展示施設についての御意見だったが、集約案のほうは、あまり具体的なことを書けない。
- ・ 予算やスケジュールの問題、ほかの施設等との関連等もあり、あまり具体的に書くことは難しいが、基本的には概要案であり、具体的なものはまた別にとということである。それで三の丸収蔵施設の意見については、後ほど議論をしていただく。
- ・ 復元の範囲について、今は、本丸において木造復元ができる可能性が非常に高いものについて列記してある状態である。もちろん、一気に作るわけにいかず、スケジュール的にかなり長期のことである。上田委員からは、長期のものまで含めて書いてあるけれども、今回の天守閣木造復元に関して小天守までを復元するんだと明記してはどうかという御意見だったが、これについては、集約意見として、このままでいいのか、それとももう少し具体的に書いたほうがいいのか、皆様に御意見をいただきたい。

(大庭委員)

- ・ 上田委員の意見のように、目指すことはもちろん明記して欲しいが、そういう制約があるのであれば、工事のときに完全に閉館せずに、天守閣の復元工事の様子を見せたり、VRなどを活用して、小天守を復元すればこうなるといった想定の実視化を続けると良いと思う。
- ・ そのように市民の機運を高めていかなければ、なぜこんなに高額を費やすのかということになる。例えば、天守閣はいつを目途にしているが、将来的にはこういうことを目指しており、実現すればこうなるということを、映像や工事も全て見せて集客を図るようにして、賛同する市民の声を高めることを視野に入れた施策を行う。

- ・展示収蔵施設に関しても、城下町の景観に合わせた3階建て又は2階建ての施設を整備する方向で行きそうだが、バッキンガム宮殿に併設された博物館の例では、どこからバッキンガム宮殿でどこからが博物館かわからないくらい景観がきちんと保たれており、そのような景観を保つ施設であることが非常に重要だと思う。このため、お城を基盤とした展示施設なのか、周囲の城下町を中心とした施設の景観を保つのか、この統一性が極めて重要だと思う。

(高田委員)

- ・全体を俯瞰したまちづくりは重要だと思うので、是非御検討いただきたい。
- ・この意見集約については、本当にそのとおりで、それぞれの報告についても、特に問題はないと思っているし、小天守の復元とかについても、先に具体的なものを出してPRするという部分も大切だが、やはり財源確保が1番大きな課題とされていて、市民の方々に了解を得てと書かれているので、財源を確保する上で、広島城が本当に日本を代表するお城になりうるのかを訴えていかないといけない部分だと思うので、そういった部分では、小天守とかそういったものも含めた中で、御提案をしていただければよいのかなと思う。
- ・展示施設については、全体のお城のレイアウトを含めて、色々な部分で考えていかなければいけないと思うので、三の丸の整備については、後ほどまた御意見を述べさせていただきたいと思うが、基本的には、こちらの展示収蔵施設についても賛同させていただくので、是非お願いしたいと思っている。

(三浦座長)

- ・復元範囲については、天守の木造再建と同時にとは書きにくいですが、かといって、中御門、裏御門と同じように書くと、インパクトがなさすぎるような気がするし、全体の計画としてはあまりにも大き過ぎるような気がする。かなり長期計画であるので、天守閣だけではなく、東小天守から裏御門までずらっと並べて書いてあるが、復元のスケジュールについて、さらに検討すべき課題があるので、書き方を工夫して、天守の木造復元と同時、あるいは引き続き、東小天守から南廊下まで、さらに長期的には、中御門や裏御門の整備まで考えていくというように文言を修正したほうがよいと思うがどうか。
- ・基本的には広島市が計画を作っていくので、そのアドバイスとして、少しだけ文言を変えろということではどうか。スケジュール的な問題等もあるとわかるような表記の仕方に改めてもらいたい。

(本田委員)

- ・市民の理解を得るため情報提供を活発に行っていく必要があると思う。
- ・学芸員として常々、一般の市民の方がそもそもお城や広島に歴史に関心がないという人が結構多いと思っている。長く仕事をしてきて、最近ようやく歴史に対して関心を持つ方が増えてきて、講座を行っても、たくさんの方が来てくださるようになっているが、それでもまだまだ、天守閣に関心がない人が結構いると感じている。逆に言うと、木造で復元するという情報提供をしていくことは、こういった人たちに目を向けさせる絶好の機会と思うので、今まで関心なかった人にも天守閣、引いては郷土の歴史に関心を持っていただく絶好の機会として情報発信をしていくという形がよいと思う。

(三浦座長)

- ・大体意見は出そろったと思うが、(3)展示収蔵施設の整備の具体的なことについては、後で議論していただきたいが、(3)における全体の概要として、意見があればおっしゃっていただきたい。

(金城委員)

- ・ 前回、三浦座長が広島城の天守と小天守が複連結式であり、日本では広島城しかないということをおっしゃられたので、複連結式を目指すということが広島城だけの大きなインパクトにもなるし、機運の醸成を図るためにも、日本一の城が復元されるという単純明快な言葉を是非入れていただきたいと思う。

(三浦座長)

- ・ (2)復元範囲について、東小天守から南廊下までが、天守に小天守が二つついた複連結式である。複連結式は、戦前に城の研究が始まって広島城のために作られた学術用語であり、日本で唯一の形式で非常に壮大であって、なおかつ関ヶ原の戦いの以前においては、豊臣大坂城も超えて日本一の大きさを持っていた。その後、姫路城ができたが、小天守の規模では広島城がはるかに上回っているのも、複連結式の部分が再建されたら、姫路城と並べても劣らないようなものすごい壮観さになると思う。(2)復元範囲については、東小天守から南廊下のところに、日本城郭史上、随一の複連結式天守を再建するというような文言を加えてほしい。
- ・ 中御門については、原爆で焼ける前の写真が残っているが、太平洋戦争開戦時にあって、日本国内に残っていたお城の城門では、その当時現存最古、最高格式だったのがこの中御門なので、日本の櫓門の最高かつ最大のものを持っていた、というような修飾語を加えていただきたい。
- ・ 復元の範囲について、対象に順番があることがわかるような書き方に修正していただきたい。

(大庭委員)

- ・ 広島城に関心を持ってない人に、もっと広島城がすばらしいと知ってもらい、広島のアイデンティティを再興させる。広島のアイデンティティ・ルネッサンスの象徴として、広島城が復元されることが一つの大きな目標であれば、厳島神社と二大ゾーンが構築される。そうすると、市民としても、アイデンティティは、自分が自慢できるものがないと構築しづらいが、誇るべきものであれば、広島城への関心がどんどん高まっていくし、最終的には日本で唯一の建築様式であるという誇れるものとしてのアイデンティティに昇華していくのではないかなと思う。

(三浦座長)

- ・ (1)検討の経緯のところに、広島城の持っている歴史的、本質的価値について、大庭委員の意見を盛り込んで、広島城のアイデンティティ、価値をアピールしたらどうか、その方が、意見集約がより良いものになると思う。
- ・ 広島城自体は、非常にアイデンティティのあるもので、小天守を二つ従えた日本で唯一のものだけではなくて、広島城天守の構造自体が日本で唯一、もしくは日本で一番最初に、例えば、五重天守なのに中は五階建て、五重五階の天守というのは、関ヶ原の戦いが終わってずっと後、姫路城よりもっと後になって名古屋城になってやっと五重五階ができたが、広島城ははるか昔に、五重五階だった。
- ・ 三角形の千鳥破風でも、後には飾りだけの城が出てくるが、広島城の天守は日本で初めて飾りの千鳥破風にした。そういった意味で日本一、日本随一というのが広島城は非常にたくさんあって、アイデンティティの固まりである。そういった広島城のすばらしさをかいつまんで、価値を書いていただいたほうが、集約案としてきれいなものになると思う。
- ・ 意見集約案は、(3)展示収蔵施設の整備については概要で書いてあるだけで、具体的には後ほど議論するが、とりあえずこの(3)の書き方で、提出してよいか。
- ・ では、意見集約について、若干の文言等の修正と付け加え等があるが、全体として、集約案として、皆様方の意見であるということをお承知いただきたい。
- ・ 全員一致の了承案として、提出させていただく。そして、三の丸整備の素案につい

て、資料2-1と2-2で説明があったが、意見があれば言っていただきたい。

(角倉委員)

- ・展示施設の規模について、広島城を木造復元した場合に、おそらくバリアフリー化の問題が課題として出てくると思う。木造復元を忠実にするのであればあるほど、制約を受けてくるだろう。この辺の調和は、今後の色々な検討会で検討される一つの課題だと思うが、仮に、天守の上まで登れない人が出てくるという可能性があれば、VRを使って、内部はもちろん、城のてっぺんからの視聴体験ができるような施設を、展示施設内につくることを、是非検討しておく必要があると思う。

(三浦座長)

- ・木造復元について、バリアフリー化の検討は必須のものであって、今後、市で検討していくと思うが、木造だとかなり制約があり、完全バリアフリー化はできない可能性もある。そのときに、VRを活用して、上までもし登れない方がいた場合の配慮についてもしっかりと考えていただきたいと思う。

(高田委員)

- ・三の丸のゾーニング案の中で、敷地面積とお店の数もすごく重要と思っており、アストラムラインの対策工事により制限されるのがすごく残念なこともあって、ある程度、対策工事もしっかりして、どのように配置したらよいのかを、入口動線も含めて考えていく必要がある。
- ・せっかく作るのだから、お客さんが流れないと消費に繋がらないので、その部分を十分検討してほしい。附置義務駐車場の台数、場所、バスの乗降場、これが本当に要るのかどうか。中央バレーボール場にバスの駐車場を作るのであれば、裏御門から入ってくるお客さんもいるだろうし、この出入口と動線も考えた中で、バス乗降場の設置を考えて、これをなくすことによって、さらにスペースが広がり、お店が増えれば、また、中央公園全体を見た中で、統一性のあるまちづくりになっていけば、自然とお客さんも来られるし、観光地としても、名勝、ランドマークとして、我々旅行会社も、商品も作りやすいし、販売もしやすいし、それによって消費を促すという流れになっていく。
- ・6店舗の飲食店・お土産屋がまちづくりになるのかクエスチョンであり、せめて10店舗ぐらいを並べて、着物の着付け体験ができるとか、文化をインバウンド、海外のお客さんが楽しんで帰っていただけるような体験施設もあり、まちもゆっくり散策できるような、それなりのスペースがあるような施設であるべきと思う。アストラムラインの地下を考慮して、どこに配置していくかはこれからだろうが、こういった点も検討しながら、是非、天守閣ができるまでは、PRできる、消費を促す施設として活用できるものにしてもらいたいと期待している。

(平野委員)

- ・三の丸の計画については、中央公園の部分でも、旧市民球場跡地との棲み分け、連携が非常に大事で、今の計画では、中央公園やサッカースタジアム内、旧市民球場跡地にも飲食施設ができると聞いている。ただ、三の丸に関しては、残りの2エリアと比べて、観光客が中心になると考えられるので、棲み分け、相乗効果を図ると、3つの新しく整備されるエリアの連携をしっかりすることで集客も図れると思っている。
- ・飲食施設が非常に多いけれども、体験施設も大事と思う。展示収蔵施設内に入るのかもしれないが、修学旅行生であり、インバウンドであり、観光客を考えた場合に、歴史を感じることができる体験施設も是非ここに設けていただきたいと考えている。

(本田委員)

- ・三の丸のゾーニング案について、地下道を上がって表御門のほうに行くというのが多くの人が使うルートだと思うが、ここに展示収蔵施設が来てしまうと、今、表御門のほうに向かって行くと本丸の石垣がきれいに見えて美しい状態なのが、おそらく全然見えなくなると思う。2階建てならまだしも、3階建てならば、もう全然見えない状況になる。
- ・ここに展示収蔵施設を配置しているのは、このまま西にずらせば、真下がアストラムラインになって対策工事を考慮しないといけないからだと思うが、景観の問題としては、地下道から上がってきて美しい景色が目に入って、そこに飲食店があったほうが、気持ち的には華やぐと思うので、配置を逆にしたほうが景観的にもお客さんの流れ的にも良いと思った。

(飯田委員)

- ・全体の景観、天守閣がシンボルとしてしっかりと見えることが大切だと思うので、観光バスの乗降場はここでもなくてもいいと思うし、駐車場も別なところに寄せられるのだったら寄せて、このスペースを、展示収蔵施設や飲食物販施設のスペースとして、景観を損なわないように使うほうが、観光客やインバウンドのお客様にはよいと思う。地下道のアクセスを改良していくことが大事だということも含めて、三の丸をしっかりと整備していただければよいと思っている。

(大庭委員)

- ・アクセスの問題が極めて大きいと思う。私も広島に来て7年目だが、東京から来た友達をここにちゃんと連れていける自信がまだない。道をどう上がってどう下がるのか、わからない。
- ・めいぶる〜ぷのことも出ていたが、よくわかってなくて、要は、外から来た人間も観光客も、ツアーで回らないとわからない。これからはツアーでなくて、個人で来るお客さんがほとんどであると昨年くらいに申し上げたと思う。
- ・観光客だけでなく、県内の人たちのちょっとした晴れの場所、関東エリアでいったら鎌倉は古都の雰囲気を出して楽しめる場所があり、鎌倉は近くの横浜にサッカー場もあるので、その集約版を目指すのであれば、飲食も、ここは儲かって、あそこは儲からないというのではなく、エリア全体で儲けるにはという流れに持っていくべきと思う。

(上田委員)

- ・全体として、スペースが狭く非常に厳しい。ゾーニングを見て、この駐車場スペースを何とかならないのかというのが率直なところである。また、この場所に緑化がこれだけいるのかとも思うので、少しでも華やかな雰囲気にして、皆さんが楽しいなというものを増やすため、もう一工夫欲しいと思う。
- ・当初は、イベント広場の南側も飲食施設となっていたが、今は緑化と駐車場になっている。この空間の中で、少しでも飲食等で皆さんが楽しめそうな雰囲気のことを何かできないかと思うし、バス乗降場もここまでののかと思う。
- ・展示収蔵施設について、意見集約にあった、充実した規模及び内容を備えたものを是非整備してもらいたいと思うが、景観の問題がおそらく出ると思う。美術館では地下や半地下構造のものがよくあるが、2階建て又は3階建ての展示収蔵施設を検討する中で、地下や半地下による整備も考えているのか。
- ・スペースについて、2階建て又は3階建てではそれぞれどのぐらいのスペースなのかお尋ねしたい。

(事務局)

- ・展示収蔵施設の規模については、概算事業費30～45億円としているが、当然、仮置

きではあるが、想定するある程度の床面積を踏まえて試算をしている。レイアウト上は、今の天守閣の展示収蔵は1,300㎡強だが、大体それと同規模ぐらいのスペースをとっている絵にしている。これが2階建て、3階建てだと、×2、×3となってくる。そういった床面積をベースとして、床面積に他都市の事例等も踏まえた単価を掛け合わせて、この概算事業費を出している。

- ・地下の活用は、技術的な観点での検討が必要になってくるので、直ちに可否を申し上げられない状況だが、景観面の課題との調整を図るという意味では、大変重要な御指摘と受けとめているので、今後検討を深めていきたいと思う。

(上田委員)

資料2-2の図面にあるグリーンの印は緑化か樹木か？

(事務局)

緑色のものは植栽の絵である。

(上田委員)

これだけの貴重なスペースの中で、ここに植栽がいるのかと思う。

(三浦座長)

- ・確かに設置スペースが狭いだけではなくて、この木が大きくなれば、南のほうから天守が全く見えなくなる。景観を阻害しているような気もするので、この辺についても、検討していただきたい。

(金城委員)

- ・展示収蔵施設をどこに配置するのか、アストラムラインとの兼ね合いでかなり技術的な観点があると思うが、城南通りと城北通りはバスが多く通り、特に城北通りはバスセンターへ向けてかなり多く通る。城南通りも往来のかなり多い道路なので、今のゾーニング案では、かなり車の騒音が大きく出ると思う。逆に、今の展示収蔵施設を西側に持ってくれば、その壁によって、多少なりとも騒音が軽減できると思う。
- ・観光バス乗降場に関しては、今の中央バレーボール場の方に作り、このスペースは附置義務駐車場にしたらいと思う。中央公園からのペデストリアンデッキがどこにくるかとか色々なことを踏まえて、このゾーニング案が出されたと思うので、ここを再考して、景観ももちろん重要であり、広島城天守閣が見えるのももちろんとても大切なことなので、騒音と景観とアストラムラインの技術的な観点、その辺はしっかりと知恵を絞っていただきたいと思う。

(大庭委員)

- ・植栽が伸びてしまったら天守閣は絶対に見えず、見えないと人は行かない。実際、アメリカ人の友達を原爆ドームに2、3回連れて行って、お城がちらっと見えたから行きたいということがあった。ただ、何回行ってもたどり着けない。見えていた城が、地下に潜って見えなくなると、それだけで一苦労なのに、植栽で隠したらもうかくれんぼになる。それは避けたい。
- ・広島城に限定した観光案内所は果たして必要か。しかも建物の中だと全く無意味になる。公園を全て一つのエリアにするのであれば、一大拠点となる案内センターを食事処も含めたところで一つ建ててしまえば、そこで広島城の案内もボランティアの案内場所も集約できると思う。
- ・広島城だけの案内に関しては、チケッティングで十分間に合うと思う。イメージで広島駅総合観光案内所の写真が資料に出ているが、全く外から見えず目立たない。建物の中に入れてしまったら特に目立たない。

- ・例えば、イギリスのシェイクスピアの生誕地のストラットフォード・アポン・エイボンでは、そんなに高い建物ではないが、そこに一つ、誰もがそこに行けばわかるという観光案内所の建物がある。だから、どこかに行きたい人でも、ホテルの案内でも何でも、ワンストップで対応しているそこに行く。
- ・原爆ドームに行きたい人も宮島に行きたい人も、とにかくみんな行くという拠点の案内所を一つ、誰もがすぐわかる場所にあればいいと思う。また、そうすると逆に、それを中心として、にぎわいの動線ができ上がってくるような気がするので、建物の中に入れてしまうのは、私は個人的にいかがなものかと思っている。

(角倉委員)

- ・景観で城が見えることとアクセスが大事という話だが、南方面から広島城へ行く地下道について、城南通りと城北通りに今トンネルがあり、この美装化というのも一つの手段だと思うが、将来的には陸橋にして、陸橋から城全体が俯瞰できるような、景観を味わいながら広島城に入れるとよいと思う。交通調査では、南からは広電とバスセンターの乗客数が約8割という結果も出ていたと思う。是非、アクセスと景観という面から、南側へ、江戸時代の意匠の陸橋について、将来的に、検討していただければと思う。

(三浦座長)

- ・大体意見は出揃い、非常に貴重な意見が多く出たので、参考にして、三の丸の整備基本計画を決めていただきたいと思うが、今回、皆様方の意見の中で特に問題だったのは景観、特に広島城の南正面から見たときに、天守閣が見えるか見えないのか、3階建てにすると多分見えなくなる可能性がある、それからアクセス、いろいろなお城があるが、私は広島城のアクセスは日本3大最悪アクセスの1つと思っているので、是非とも改善しないといけない。
- ・景観について御意見があったが、広島市史に、明治時代に描かれた広島城の三の丸辺りの絵があるが、ちょうど二の丸の御門橋の前のところが描いてある。その絵によると、二の丸にいく橋を渡る手前側、今の資料でいうと、展示収蔵施設が建っているところだが、ここは城門前の大きな広場だった。また、展示収蔵施設の西半分くらいのところに巨大な侍屋敷があったのが本来の形である。
- ・城門前の豊かな広場、大体広島城のような大城郭だったら、二の丸御門橋、表御門といえ、広島城の中心部で一番の入口なので、あまり狭苦しく入っていくのは、大城郭としての風格を汚す感じがする。かつての景観がどうであったかを知りながら計画を立てていただきたいので、是非とも広島市史に描かれた景観を参考にしながら、計画を進めていただきたい。
- ・例えば、草色の多目的広場は、アストラムラインの上なので、重たい建物は建てられないので多目的広場になっていると思うが、飲食街等だと、例えば名古屋城の金シャチ横丁では、二つあるエリアのうちの一つは、非常に軽量の、アストラムラインの上に建てても何も問題ないような建物が建っている。アストラムラインの上に建てられないという前提とするのではなく、平屋の軽量鉄骨くらいだったら影響ないはずなので、その辺りの強度等についても再検討しながら最適の配置を考えていただきたい。
- ・皆様の意見によると、アストラムラインを避けることで用地を有効活用できていないので、二の丸の入口辺りに施設が集中して景観を害している。展示収蔵施設を3階建てにすることについては、全国的な考えでは、お城の外側にあるこういう施設については、景観に配慮して、景観の阻害にならないだけでなく、施設自体が、本物の景観と調和しており、例えば3階建てにすると、なかなか調和するものは実現が難しいけど、1階か2階建てであれば、何とかかなと思う。したがって、かつての景観と、かつての空間の利用と、それから天守閣の眺望だとかアクセスとかさまざまなものを勘案して、よりよい計画を策定していただきたい。

- ・特に広島市史に載っているカラーの絵を是非とも参考にして、別にそのとおり作って欲しいというわけではないが、かつての景観を踏まえながら、よりよいものを作っていただきたい。

(事務局)

- ・広島城のあり方に関する懇談会は、広島における武家文化のさらなる発信、城郭全体のあり方について検討するため、令和元年10月の第1回から本日まで、書面開催も含めて、6回開催してきた。本日皆様の御意見の総意として、広島城天守閣の方向性に関する懇談会意見集約案を提出していただいた。今後、いただいた懇談会意見集約をもとに、引き続き、広島城天守閣の耐震対策について検討していく。
- ・広島市のあり方に関する懇談会は、資料3の進め方の中で御説明したとおり、今回の意見集約を提出いただいたことにより、意見聴取を終了として、今年度末をもって廃止させていただきたいと考えている。
- ・本日の議題(2)の三の丸整備基本計画（素案）については、いただいた大変貴重な御意見等も踏まえ、令和3年の6月ごろを目途に策定したいと考えている。
- ・本日は大変長い時間ありがとうございました。またこれまで6回懇談会で、大変有意義な御議論をいただきまして本当に感謝を申し上げます。以上をもって、令和2年度第4回広島城のあり方に関する懇談会を終了する。本日はありがとうございました。